

“ちいさな企業” 発展会議（香川県高松市）  
議事概要

中小企業庁

- ・ 日時：平成27年2月10日（火）14：00～16：00
- ・ 場所：香川県高松市（高松サンポート合同庁舎 6階 607会議室）
- ・ 中小企業・小規模事業者、支援機関、地方自治体の取組を御紹介いただくとともに、意見交換を行った。
- ・ 参加者からの主な御意見は以下のとおり。

＜中小企業・小規模事業者＞

- 小規模事業者持続化補助金を使って改装したが、なかなか客が増えないのが大きな悩み。客を呼ぶための工夫が必要。
- 創業時は販路拡大にお金がかかるので、そこに支援してもらえたら嬉しい。
- 補助金は精算払いが大変。概算払いのような、資金繰りに厳しい中小・小規模事業者が使いやすい補助金制度の充実をお願いしたい。
- 小規模事業者持続化補助金で食品を真空パックする機械を購入した。賞味期限を長くし、見た目も包装を工夫した。ただ、できる限り、自己財源で商売をやっていくのが本来だと思うので、今後、補助金を使うかは検討課題。
- 円安で飼料代に大きな影響。すべて輸入しており、為替でコストが2割増。1次産業は資本の回転率が悪く、急激な変化についていくのが大変。社会の変化をできるだけゆっくりしてもらえると助かる。
- 醤油をもっと生活に根付かせるように、瓶やラベルなどデザインを変えた。20年ぐらい取り組み、販売の8割くらいがお取り寄せのお客様。高松空港でも人気NO.1のお土産となっている。
- 結婚式場を持たないソフト・コンテンツ提供の事業で、景気の波やナシ婚・地味婚ブームで仕事が減ってきた。そんな中で、地域には社会の変化に左右されない貴重な財産があることに気づき、瀬戸内海の風景や文化財などを活かした

「ふるさとウェディング」を企画して全国に販売。首都圏や大阪と競争するため、地元にいながら首都圏価格が適用でき、事業として成立するようになった。

- アイデアの事業化が先で、補助金申請に使う時間をもったいなく感じ、補助金を使うことがなかった。中小企業には時間がない。アイデアを迅速に事業化につなげるよう、補助金制度の簡素化を実現していただきたい。
- ものづくりや販路拡大の支援は多いが、商品を作ってそれを販路開拓するまでの試食やモニタリングの支援をお願いしたい。自社が想定したターゲットと商品のターゲットが一致しないこともあり、その場合、良いものも、売れない。
- 中小機構のアドバイザーのおかげで、地域資源の認定を取れた。信頼関係のある産官連携であれば、企業の力を100%以上引き出し、企業の元気に繋がると実感した。
- 女性の社会進出や男女共同参画の議論では、制度優先で意識改革が後回しになっている。男性の意識改革だけでなく、女性の意識改革も必要。中小企業も同じ。社会が中小企業を見る目、中小企業で働く人の意識改革も必要。

#### <支援機関・自治体>

- 顔が見える相談を心がけている。従来は基礎的な経営指導が多かったが、近年は経営計画策定・経営課題の抽出にシフトしている。
- 業績悪化企業の共通点として、経理面に課題がある。業績が厳しい企業でも、何らかの強みがあるので、そこを探し当てるという役割を担っている。
- 地方の専門家が小規模事業者の強みを活かして元気にする活動を続けたい。



以上